

KATAHIRA & ENGINEERS INC.

株式会社 片平新日本技研



交通インフラ総合コンサルタント
株式会社 **片平新日本技研**
KATAHIRA & ENGINEERS INC.

〒112-0002 東京都文京区小石川2-22-2 和順ビル
<https://www.katahira.co.jp/>



株式会社 **片平エンジニアリング・インターナショナル**
KATAHIRA & ENGINEERS INTERNATIONAL

〒104-0041 東京都中央区新富1丁目14番1号 いちご八丁掘ビル
<http://www.katahira.com/>

時代をリードする 安全・安心で快適な 次のインフラへ。



代表取締役社長 保崎 康夫

片平新日本技研は2つの会社の合併により生まれた新しい会社。
相乗効果を発揮し、さらに大きく可能性を広げています。

当社の母体である株式会社片平エンジニアリングは1970年に創立され、2020年9月1日に50周年を迎えました。

時代の移り変わりとともに、公共事業の拡大の趨勢に呼応して売り上げを増加させ、発注者のニーズの変化に対応して業容を拡大して参りましたが、2017年の合併を経て、株式会社片平新日本技研としてさらなる発展を遂げています。

現在我が国においては進展する少子高齢化、年々激甚化する自然災害、急速なインフラ老朽化、IoTをはじめとした技術開発の進歩やライフスタイルの変化など、社会、経済を取り巻く環境が大きく変化しています。

情報技術の加速度的な発展に伴い、現代は未曾有の変革期にあります。従来の方法論は通用せず、社会はあらゆる分野で新しいソリューションを求めており、情報化、リモート化、eコマース化などが促進されるでしょう。

このような動きは交通、インフラの整備・運営に大きな影響を与えると想定されます。

当社は、20年から30年先をにらんだ長期経営計画を策定し、「革新し続ける企業」「チャレンジし続ける企業グループ」「地域に貢献する企業」「社員がやりがいを感じる企業」「収益性の高い企業」を目指し、しっかりとしたかじ取りを行って、歩み出します。

企業理念

当社の企業理念は3つの観点から捉えています。

存在意義

・ニーズに応える社会基盤の形成と安心できる社会の創造に貢献

経営姿勢

・高度な技術による国土デザインの提案
・つねに“夢”を持ち、高い目標を向いた思索と行動
・情報開示・コンプライアンス・透明性を確保した健全経営

行動規範

・社会の発展と人々の福利のために行動
・創造・チャレンジの意識を絶やさない技術的プロフェッショナルサービスの提供
・顧客の信頼に応えるため、社員の相互理解と協働を通じた「組織力」を発揮
・企業の信頼と社会的責任を果たすため、コンプライアンスを遵守



沿革

株式会社片平エンジニアリング		新日本技研株式会社	
1970年 9月	会社設立(東京都港区西新橋)	1969年 6月	会社設立(東京都新宿区市ヶ谷)
1974年 3月	本社を東京都中央区銀座に移転	1972年 7月	大阪事務所を開設
1985年 6月	名古屋支店を開設	1980年 9月 10月	本社を東京都港区芝に移転 広島事務所を開設 (後に中国支店へ名称変更)
1987年 5月	グループ会社として 株式会社片平エンジニアリング・ インターナショナル設立		
1989年 7月	仙台営業所を開設(後に東北支店へ名称変更)	1998年 2月	仙台事務所を開設
1990年 4月	大阪支店を開設	5月	福岡事務所を開設
1991年 6月	本社機能の一部を東京都豊島区池袋に移転	2003年 11月	名古屋事務所を開設
1996年 9月	本社を東京都文京区小石川に移転し統合	2012年 1月	復興支援室を開設
1997年 4月	福岡支店を開設		
2011年 4月	東日本復興対策室を開設		
株式会社片平新日本技研			
2017年 8月	(株)片平エンジニアリングと新日本技研(株)が合併し、 会社名を(株)片平新日本技研に商号変更(東北、名古屋、大阪、中国、福岡に支店配置)		



社会を支える技術。
暮らしを支える情熱。

INDEX

- P05 Business Field 01 道路
- P07 Business Field 02 構造橋梁
- P09 Business Field 03 交通都市
- P11 Business Field 04 事業マネジメント
- P13 Business Field 05 インフラマネジメント
- P15 KATAHIRA Works 先輩からのメッセージ
- P17 KATAHIRA Challenge
- P19 KATAHIRA Vision
- P21 Work Environment
- P22 The Starting Point of KATAHIRA 片平の原点

道路

人と車を探求する。
道路の設計はそこから始まる。

片平新日本技研は道路分野のリーディング・コンサルタントとして、国土軸を担う高規格道路から公園の遊歩道まであらゆる「みち」にコミットします。構想立案、事業計画策定、概略設計、予備・詳細設計などの事業段階やシーンにおいてさまざまな提案を行い、洗練された知的成果をあげています。

私たちは人や車の特性を理解した上で、安全で快適な道路を創造するアイデアや工夫を大切にしています。道路にかける熱い思いを仲間と共有し高度な技術力と豊富な経験をもとに、あらゆる道路の計画・設計を行います。



圏央道(大栄JCT)



外環 中央JCT(3D模型)



新モビリティ



新東名 富士市内



上野恩賜公園(園路)



東北道 出流原PAスマートIC
(フォトモンタージュ)

構造橋梁

橋は後世まで残る都市の財産。
性能と、美しさを追求。

川や溪谷、さらには海までも横断する橋は道路交通ネットワークの要であり、重要な社会インフラです。その大切な橋がいつまでも利用され、人々に愛され続けるために、私たちは豊富な実績から培った数々の技術を駆使し、安全・安心で耐久性のある構造物を提供するとともに、自然と調和した美しい橋や街のランドマークとなっているデザイン性の高い橋など、時代のニーズを設計に反映しています。設計にあたっては、建設から維持管理までのライフサイクルコストの軽減も大きな要素と捉え、きめ細かな検討を実施。さらに少子高齢化時代を迎え維持管理の重要性が高まる中で、橋梁点検、維持補修設計、大規模地震対策として耐震補強設計なども行っています。



鶴見つばさ橋



夢吊橋



北上大橋



牛根大橋



かつしかハープ橋



東京湾アクアライン橋梁



交通都市

暮らす人・働く人への思いやりで
まちをつくり、道をつくる。

“まち”はその土地に暮らし、仕事をする人がいて、日々さまざまな交流が行われ、その積み重ねで
つくりられています。交通計画・都市計画は、そのまちの暮らしや産業がほんの少しでも潤いのあるもの
になるよう我々ができることがあります。そのためには専門技術を磨くだけでなく、幅広い知識と
経験、価値観を持ち、そしてそのまちに暮らす人々を思いやる心が大切です。都市の骨格となる道路
のあり方を「地域の人に喜んでもらえる」という視点から考え、未来の道と都市のあり方を創造する。
“まちとまち”をつなぎ、“人と人”をつなぎ、そこに新しい文化と歴史が築かれていくことを願い、アイ
デアを注ぐ。

交通計画・都市計画は、「未来社会のプロデューサー」として“まち”をデザインします。



渋滞予測



地方都市総合計画



地域活性化支援(漁港活用)



交通マイクロシミュレーション



交通結節点(上野駅)



休憩施設設計画(道の駅いちかわ)

事業マネジメント

設計思想を反映した道路施工が円滑に進むために。

国土交通省やNEXCOなど大規模事業を行う発注者と、ゼネコンなど施工者の間に立ち、事業・施工が設計思想を反映し、円滑に進むよう業務に携わります。

その業務領域は「測量・調査」「設計」「工事」、道路が開通した後の「維持管理」と幅広く、それぞれの事業段階において、工程・コスト・品質・安全などの管理を行うとともに、事業全体が効率的に進むよう、総合的な技術マネジメントが求められます。

現場で得た知見や施工上のノウハウは、自身の設計業務における「経験に裏打ちされた説明力の高い知識」として技術者の成長を促すとともに、道路を「計画する・つくる・守る」という各段階で社会に貢献できます。



鉄筋組立作業(ガス圧接)



杭基礎工事



橋梁下部工事



土工工事



橋梁上部工事



標識設置工事

インフラマネジメント

インフラの老朽化や災害から 社会を守る、という使命。

道路やトンネル、橋梁などのインフラは、建設されて長い年月が経ち、老朽化が進んでいるものがあります。私たちは、そうしたインフラに対し、最先端のICT、IoT技術を駆使して調査、点検、補修設計、維持管理計画の策定などを行っています。

また近年は毎年のように異常気象が起これ洪水などの危険が増えており、首都直下地震の可能性も叫ばれています。こうした災害に対し、防災機能の向上はもちろん、被災を前提とした回復力の観点から計画・設計を行うなど、安全・安心で快適な社会の創造と保全に努めています。計画にあたっては、防災のための構造物や生活の利便性向上のための構造物が自然を破壊することがないように、入念な事前調査と環境保全策を提案しています。



ボーリング掘進作業



切土のり面調査



鉄筋探査



路面平坦性計測



注視点調査(アイマークカメラ)



洗掘調査

先輩からの メッセージ

先輩社員たちは、どんな理由で片平新日本技研を選び、今どのように働いているのでしょうか。インタビューから、イキイキと働き、充実した毎日を送っている先輩社員の姿が浮かび上がってきました。



先輩社員への質問

Q1

どんな仕事をしていますか？

Q2

仕事の「面白さ」「やりがい」は何ですか？

Q3

会社の雰囲気はどうですか？

Q4

この業界・会社を選んだ理由は、何ですか？

Q5

これから片平新日本技研を目指す人へのメッセージをお願いします。

道路部

森本 一直

1995年入社 | 愛知県出身

A1 主に東京都心の渋滞を減らすために、環状の高速道路に関する計画・設計の仕事仲間と一緒にしています。

A2 道路は毎日の生活に欠かすことのできない社会インフラであり、場合によっては人の命に関わる大事なものです。このような大切なインフラに、しかも大規模な国家的プロジェクトにも直接関わる仕事であり、やりがいや責任を感じています。

A3 もともと社内は家庭的で、トップから末端まで風通しの良い会社です。国籍性別を問わず、さらに、若い人が増えてこの先会社がどのように成長していくのか楽しみです。

A4 モノが現場でできあがっていく過程に憧れて、建設系の大学を選択。現場よりも上流側である設計に魅力を感じてこの会社を選びました。

A5 普段の生活で使う街路から都市間を移動する高速道路のような国家プロジェクトまで、さまざまな道路の計画・設計・現場管理・維持補修など幅広く携わるチャンスが当社にはあります。熱意や興味のある人、お待ちしております。

構造橋梁部

吉永 亜美

2015年入社 | 佐賀県出身

A1 何もない土地に1から橋梁を計画し、設計計算を行った後に図面化します。現地状況や土質条件などが同じということはなく、その現場にあった計画を行うことは非常に大変ですが醍醐味でもあります。

A2 最近、部署内で誰も使用したことがない設計ソフトを攻略。「できない」「わからない」ができるようになったときの快感が久しぶりの感覚でとてもワクワクしました。自分が設計した橋梁を現場で目の当たりにしたときはやりがいを感じますね。

A3 上司にも積極的に意見を言える働きやすい会社です。上司は質問にも時間をかけて教えてくれますし。部署間の隔たりがないのもコミュニケーションがとりやすいですね。

A4 業界を選んだ理由は「橋が好き」だから。会社説明会に参加した際に建設コンサルタントの存在を知り、設計に興味を持ちました。

A5 違う分野の人にとって構造設計はハードルが高いと思うかもしれませんが、そんなことはなく、入社してから段階的に学ぶことができます。

インフラマネジメント部

川西 翔也

2018年入社 | 東京都出身

A1 歩道橋や標識などの点検に携わり、利用者に影響をきたす損傷があれば原因を明確にし、応急措置や通行止めなど現場の判断で行います。

A2 構造の機能性や補修について学ぶことができ、幅広い知識や経験が身につくことに面白さを感じています。インフラの維持管理は必要不可欠なことで、やりがいがあります。

A3 上司や先輩にサポートしてもらいながら、自分のペースで仕事できていますので、働きやすいですね。また私が所属するフットサル部は年齢を問わずたくさんの方が和気あいあいと参加していますよ。

A4 学生時代は、環境を学んでいましたが、インフラに関連した仕事に就きたいと思い、スケールの大きいプロジェクトに携わることができるこの会社を選びました。

A5 私のように知識ゼロからのスタートでも問題ありません。どんな仕事に就きたいか強く思うことが大切だと思います。当社は上司、先輩社員に相談しやすく、有給休暇も取得しやすく、働きやすい環境です。

交通都市計画部

多門 みさき

2017年入社 | 和歌山県出身

A1 交通分野では高速道路の整備効果検討や、渋滞と事故発生状況の整理など。都市分野では「道の駅」の大学連携・災害時の情報発信機能の支援と施策検討などを行っています。

A2 自分が携わった資料がプレス資料や説明資料として世の中に公開されたときは「頑張ってたかったな」と思います。

A3 所属する部署に関係なく、みんな仲がいいですね。部署内でも上司や先輩に意見が言いやすい雰囲気づくりをしてくれています。

A4 地元が被災し普通の生活ができなかったときに、インフラ整備の仕事がしたいと思いました。当社は、都市分野と交通分野の幅広い事業に携われるのも魅力でした。

A5 今は学生生活を充実させてたくさんの思い出をつくってください。そしてリモートで仕事をする環境づくりをしておく、これからの社会では役に立つと思います。専攻分野が違う人でも興味を持ってくれば大歓迎です。一緒に働くのを楽しみにしています。

事業マネジメント部

梅津 堯

2013年入社 | 神奈川県出身

A1 新東名高速道路の建設現場で施工管理をしています。業務内容は工事の工程・品質・安全管理のほか、地元の方々や関係機関との協議・調整などを行っています。

A2 何もなかったところから工事業者と調整しながら現場を進め、カタチが見え始めてきたときに「大きなプロジェクトに携わっているのだな」と改めて実感します。開通時にはもっと大きな達成感を得ることができると想像するだけで今からワクワクします。

A3 部活動の時はいい意味で上下関係を取っ払いながら楽しくプレーできるので、先輩や後輩と仲良くなりやすい環境だと思います。

A4 建設コンサルタントがどんなことをしているかわからなかったのですが、大きな事業に携わり、完成したときの達成感を味わってみたいと思い、この業界に飛び込みました。

A5 建設コンサルタントは専門性が高い職業ですが、うちの会社は異業種からのチャレンジでもやる気があれば受け入れてくれます。携わったものがカタチになる喜びを分かち合える仲間を楽しみに待っています。

先進の技術を活用することで さらなる安全・安心・快適を生み出します。



広範囲にわたるインフラの整備。片平新日本技研はそこに最新のテクノロジーを注ぐことにより、効率的で精度の高い計画・設計を可能にしています。

AIを用いた開発

ICT技術やビッグデータを活用し精度の高い計測を実現しています。



打音検査棒の開発
(トンネル内装工の不良箇所を検出)



画像処理(従来手法に拘らない、「車」「人」「他モビリティ」の動きを計測する手法の基礎研究)

路面表示による速度コントロール技術の開発

知覚や認知といったドライバーの心理過程を研究し、道路の設計に活かしています。



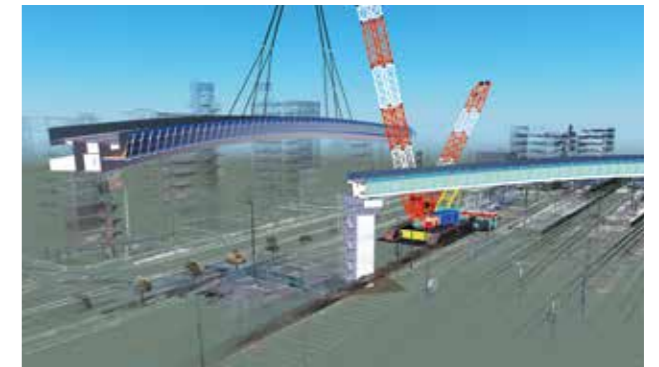
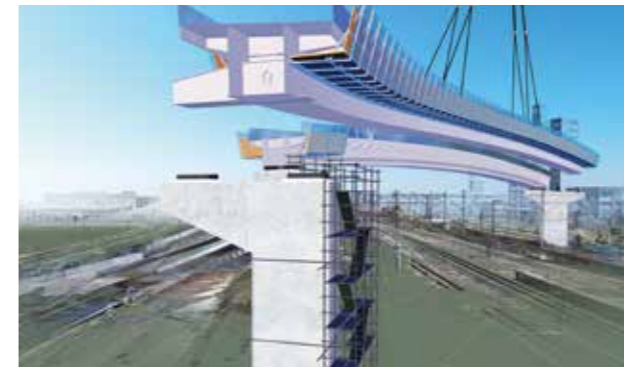
海外での研究成果の発表
(REAAA アジア・オーストラレーシア道路技術協会)



高速道路での実装テスト

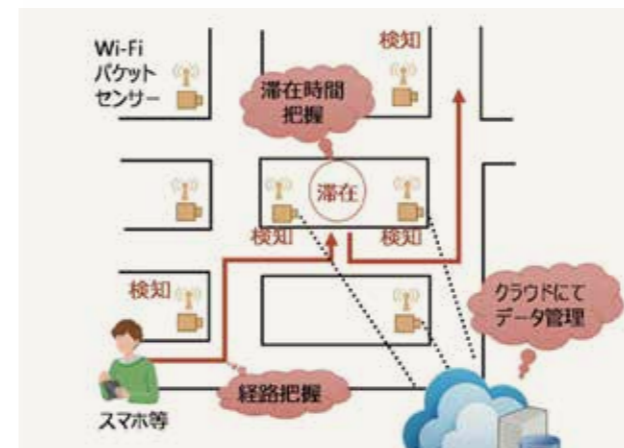
3D架設シミュレーション

現地の3Dスキャナーデータと3D-CADを利用し、架橋状況を可視化。大型クレーンの逐一の動きを再現し、周辺施設との離隔等を把握した安全性の高い架設計画を立案しています。

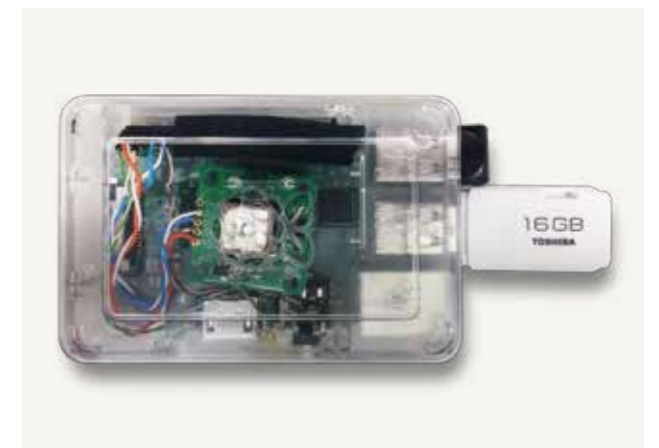


Wi-Fiパケット情報を活用した新たなツールを開発

Wi-Fiを活用した機器により、渋滞情報などリアルタイムでの管理を可能にしています。



Wi-Fiパケット分析



Wi-Fiパケットセンサー

このほかにも、社員のアイデアをベースにさまざまな技術開発が行われています。
アイデアは失敗を恐れずチャレンジする社員の個性であり、
未来社会を切り開く建設コンサルタントの原動力です。

道を拓き、未来を描く。



私たちには、どんな未来が待っているでしょう。忘れてならないのは、未来は「今」の延長であるということ。より良い社会をつくるという思いを積み重ねることで、私たちが願う素晴らしい未来に出会うことができるのではないのでしょうか。

片平新日本技研が考える次世代の交通インフラは、人流・物流はもちろんのこと、社会の交流を支えるインフラ。これまで培ってきた「道路を主軸とした技術」を中心に、「情報」「サービス」「シェアリング」などの新たな軸を加え、インフラ機能の高度化・集約化を実現するイノベティブな技術の創造に挑みます。

片平新日本技研は、高度情報化社会の社会基盤を支えるリーディングカンパニー「次世代交通インフラ総合コンサルタント」として、輝かしい未来の創造を目指します。

企業の方向性

革新する「次世代交通インフラ総合コンサルタント」

企業の姿勢

チャレンジし続ける躍動感を持った企業グループ

企業の存在意義

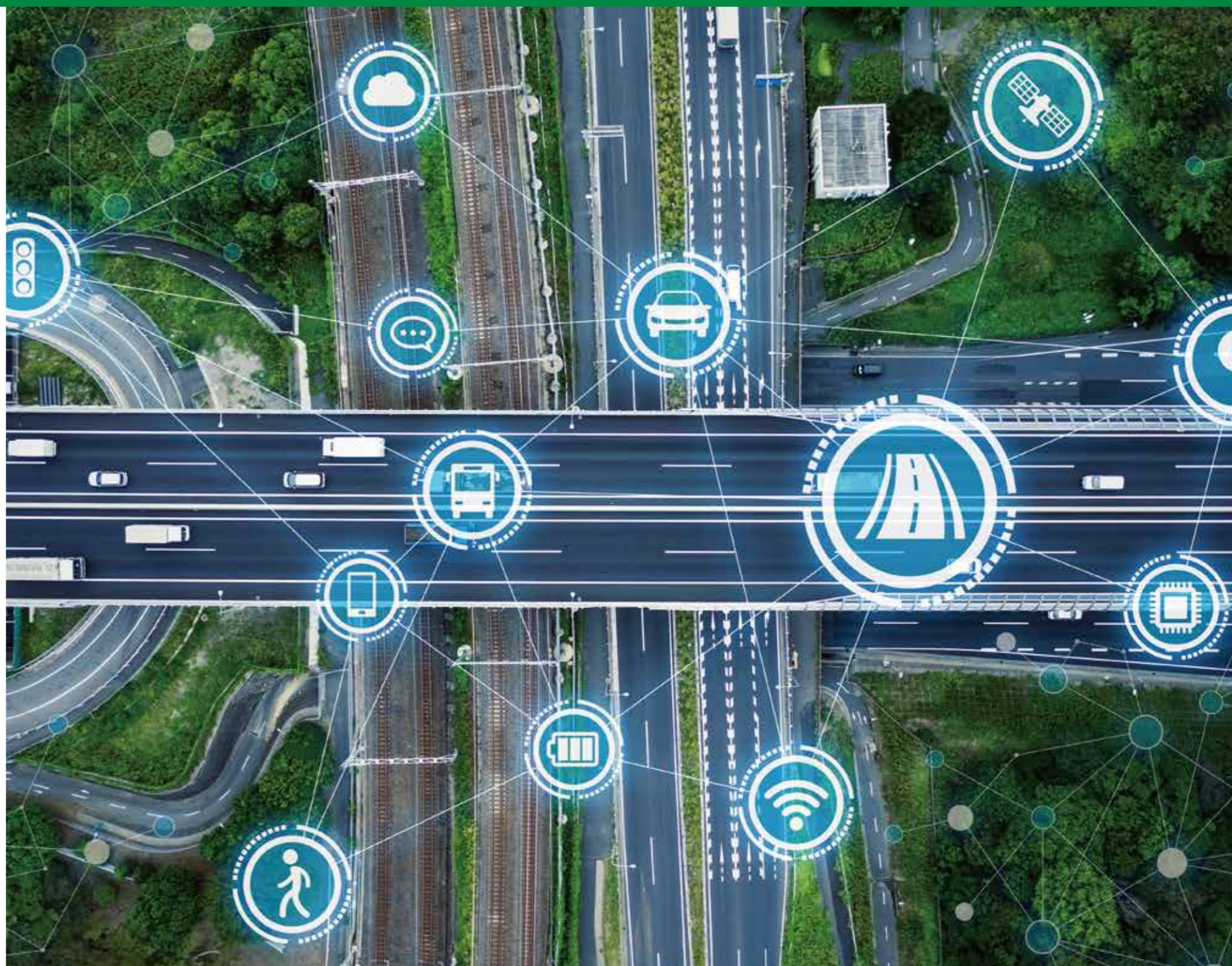
地域社会から認められ、期待される企業

社員のすがた

全社員が「やりがい」を実感できる企業文化

収益性のあり方

売上確保と高利益体質を追求する企業



働きやすい環境がやる気を引き出し 社員の可能性を高めています。



オフィスリニューアル

オフィスは、ただ仕事をするための場所ではありません。食事をしたり、仲間と談笑したり、休息を取ったり。その一つひとつを充実させることでリフレッシュでき、仕事にも集中できる…。

片平新日本技研ではそうした考えのもと、本社をはじめ、大幅にオフィスのリニューアルを推進。一人当たりのスペースを広くし、清潔感のある空間でストレスのない毎日を実現しています。

本社/東京本店リニューアル



会議室フロア



ミーティング/リフレッシュスペース

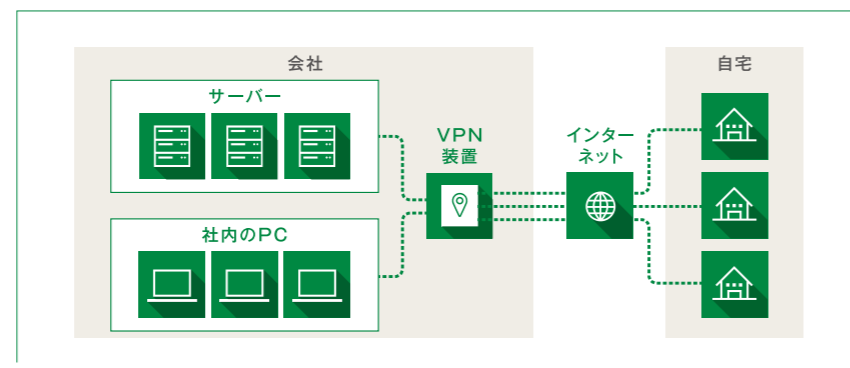
名古屋支店リニューアル



ミーティング/リフレッシュスペース

テレワーク環境の整備

時代とともに働き方も変わります。ITの発展により、仕事をするのは会社のデスクだけとは限らない時代となっています。片平新日本技研ではさまざまなニーズに合わせて働き方を選択できるよう、セキュリティを確保したテレワーク環境の整備も進めています。



テレワーク補助金

在宅でのテレワーク環境を整備するために、社員全員に補助金を支給しています。

コワーキングスペース

自宅以外でも快適な労働環境を確保するため、コワーキングスペースを契約し、社員が必要な時に利用できる環境を整備しています。

片平の原点

高速道路とともに。

1970年、東名高速道路全線開通の翌年に、
片平エンジニアリングは産声を上げました。

創業者は片平信貴。

内務省、建設省、日本道路公団を通じて高速道路建設を牽引してきた
技術者が立ち上げた小さなコンサルタント会社が始まりです。

「会社と云うより、専門的な技術者の集団」。

創業者のそんな思いから、

日本語表記より先に英字表記の会社名が決まりました。

KATAHIRA & ENGINEERS INC.

その後、技術者たちはわが国の高速道路整備に活躍。

ある者は路線計画を行い、ある者は設計図面を引き、

ある者は建設現場で構造物の品質管理に技術力を発揮しました。

高速道路網の整備が進んだ今でも変わっていないこと、

それは「この国を良くしよう」という

社員一人ひとりの気概です。



片平信貴と技術者達



東名高速道路